



## 今、思うこと

看護部長 樋口 由美子

今年の9月で、看護部長としての業務を始めて2年になります。それまで、病棟師長と総師長の兼務でした。言い訳になるかもしれませんが、以前は全体を見渡す余裕もなく、日々業務に追われていたように思います。

私は元々臨床が好きで、巡回中に患者さんに挨拶や声かけし、発語はなくても表情が変わったりなど、少しの変化を感じられるよう努めています。私自身は、患者さん、ご家族の皆さま、職員みなさんに支えられて仕事ができていると思っています。認知症の患者さんの看護・介護は大変なことが多いですが、その中で喜びも感じてもらいたいと願っています。そのためにはどうしたら良いか、日々模索しているところです。

開院以来、数えきれない程の患者さん、ご家族の皆さまと看護を通じて関わってきました。その体験が今の自分の高齢者の看護に対する思いに影響していると感じます。自分自身も年を重ね、高齢者になった時にどうありたいかと考えると、やはり「安心と笑顔」ではないでしょうか。誰しも年をとっていきます。80年、90年生きてきた方たちの歴史があり、今がある。その歴史の最終段階で、私たちは、目の前の患者さんに関わっています。

家族の方に、「上野公園病院に入院して良かった。」と書いていただけるように努力していきたいと思います。

## 今年も 可愛い雛が産まれました！！



毎年、病棟にツバメが巣を作ります。今年もツバメが来て、5羽の雛が産まれました。ところが何故か巣が下に落ちてしまい、窓のへりに雛が投げ出されてしまいました。雛は職員が助けてくれ、箱での生活が始まりました。

通常、高い所に巣を作るので、子育てを中々見る事ができません。初めて目の前で成長を見る事になり、毎日の楽しみとなりました。数日後5羽の雛は、全員無事に巣立っていきました…。写真は、親のツバメが餌を与えている様子です。

## 医療安全管理委員会より

西2病棟 梅木 しのぶ



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう  
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス  
<http://www.uenokoen-hospital.jp/>  
E-mail  
[uenokoen-hp@qiga.ocn.ne.jp](mailto:uenokoen-hp@qiga.ocn.ne.jp)

夏の気配を感じさせるこの頃。体調に注意が必要な時季でもあります。高齢者において体調管理と共に私達が注意しなければならない事が、梅雨時期に床ですべるなどでの転倒・骨折です。これらの事故をおこさないための対策を取らなければなりません。

当院棟では、医療安全委員会メンバーが各病棟に2～3名ずつおり病棟内で事故がおこらないように、病棟スタッフと話し合い予防・対策を考えます。そして、月1回の委員会に各病棟での事故発生数、その内容と対策など話し合った事を提出し全体で対策を粘り、事故を起こさないよう皆で心がけています。

そこで骨折しない身近でできる予防対策として、どのような事が必要でしょうか。小さな段につまずくなどある人は、特に気をつける必要があります。予防対策として①股関節の周りを軟らかくする（無理しない程度でのストレッチ）。②歩く時かかとつま先を高くあげる。（ここは意識してあげてみる）。③もし、できればイスや壁に掴まり四股を踏んでみる。④イスに座り、両足を交互に上げる下げるを時間を決めてしてみるなどがあります。そうすると少しずつですが下半身が鍛えられ筋肉が強くなります。

病棟でも、無理しない程度で作業療法士が関わり、運動を取り入れています。皆さんも事故につながる前にまず予防を取ってみては、いかがでしょうか。

## 『いま』を生きる...

作業療法士 中山 真一

『いま』を生きている。私がある本を読んでいる時に、認知症の方についてこのように表現されていました。入院されている皆さんと日々、一緒に過ごしてきましたが、この言葉にとっても共感できる部分がありました。

認知症になると記憶障害や見当識障害などの中核症状が現れます。記憶障害で数秒から数時間前の事を覚えず、「今まで何をしていたか？」と思う事も日常的にみられます。また、見当識障害で「今、どこに居るのか？」が不明確になったり、「今、何時ぐらいなのか？」といったことが判らなくなり、不安に陥ることもみられます。自分がこの状況に身を置かなければならないと考えると不安を感じてしまいます。

「今まで自分は何をしていたか？」が判りにくい自分。それと同時に周囲では当たり前のように色々なことが刻々と進行している状況。自分が考えている場所と現在起こっていることの不一致など……。さまざまな感情が、頭の中をめぐっていると思われれます。その中で『いま』を探り、不安や焦りも抱えた上で、自分が判らない事をなるべく悟られないようにし、何とか周りの状況を察して、それに合った行動を取りろうとしている。そのような状況ではないのかと……。

「私は何が出来るのだろうか？」と考えると、そのような状況の中で過ごしている皆さんの、不安や焦りなどの感情を汲み取り、その方の『いま』を理解できるという事が頭に浮かびました。皆さんに安心して一緒に過ごしてもらえるように努める為、これからも自分と向き合い、入院されている皆さんと向き合っていきたいと思えます。